

愛知県西部における子育て世代居住意識アンケートによる満足度分析

名古屋工業大学 学生会員 中川 渉二
 (株)セブテック・クロスゲート 非会員 篠原 将太
 名古屋工業大学 正会員 藤田 素弘

1. 目的

我が国では、2050年には、総人口が1億人を下回る予測があるように、人口減少を抑えることができない状況にある。その中で愛知県は戦後一貫して人口増加が続いてきたが、2020年には人口減少に転じた。ただし、愛知県の中でも人口増加を続けている地域と人口減少が定着してしまった地域に分かれており、実情としては地域によって大きく分かれる。

そこで、本研究では人口動態で特徴をもつ愛知県西部の市区に居住する子育て世代を対象として、アンケート調査を行うことにより、街のさまざまな評価項目に対する満足度指標と人口指標等の分析から、子育て世代がどのような街に住みたいと考えているのかについての要因を明らかにすることを目的とする。

2. アンケート調査概要

本研究では各市について比較して人口増加の要因を明らかにすることを目的としているため、人口増加率が適度にばらついて、地勢的にも居住地選択として比較が可能な地域を調査対象に選定することにする。

まず、主要な指標としての人口増加率は H22 年と H27 年の国税調査の各市区の人口の比較において、以下の式で算定した。

$$\text{人口増加率 (\%)} = (\text{H27 年人口} - \text{H22 年人口}) / (\text{H22 年人口}) \times 100$$

この式より、名古屋駅から 10-20km 圏内で人口増加率が高い市と人口減少率が高い市を両方含めるようにして、表-1 に示す 14 の区や市を選定することにした。表ではこの地域選定時の人口指標として参考にした厚生労働省が推計している 2015-2019 年の合計特殊出生率も併せて示した。合計特殊出生率は、「15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」である。

調査方法は、対象地域に住んでいる末子が 0～15 歳（性別は問わず）の子供を育てている女性に対して、インターネット上で行うアンケート調査（楽天インサイト株式会社に依頼）による。実施期間は 2020 年 12 月 17 日～12 月 22 日である。サンプル数は名古屋市が 100 サンプルで、名古屋市外は 250 サンプルであり、合計で 350 サンプルになる。各市区での回答者数は表-1 に示している。街の魅力を考えるうえでの評価項目として、生活利便性（8 項目）、住みやすさの安全性（11 項目）、文化教育環境（8 項目）、総合評価（2 項目）などに分類される計 29 項目につ

表-1 対象地域ごとの回答数と人口指標

対象市区町村	有効回答数	人口増減率	合計特殊出生率
名古屋市昭和区	31	0.015	1.28
名古屋市緑区	19	0.053	1.64
名古屋市中区	16	0.062	1.04
名古屋市中村区	34	-0.022	1.3
長久手市	30	0.107	1.67
日進市	30	0.044	1.85
大府市	31	0.046	1.93
瀬戸市	35	-0.024	1.34
尾張旭市	32	-0.004	1.5
みよし市	19	0.028	1.8
豊明市	20	-0.009	1.52
弥富市	12	0.000	1.5
愛西市	21	-0.029	1.25
津島市	20	-0.028	1.29
合計	350	—	—



図-1 対象とした名古屋市4区と周辺10市

いての満足度（5段階評価で表内の数字が分析で利用する点数）である。

3. 人口指標と各項目満足度との相関分析

人口増加率や合計特殊出生率（以降、出生率）について、これらと各項目の満足度との関係についてみていく。図-2に人口増加率と出生率による各対象市区の散布状況を示す。全体としてみると人口増加率と出生率では正の相関がみられる。しかし、人口増加率の高い順では長久手市、緑区、中区、の順で並ぶが、出生率の高い順では、大府市、日進市、みよし市となり、特に名古屋市内の人口増加率の高い地域では出生率がやや低くなる傾向がみられた。この理由として人口増加率と出生率では住民が要望する居住環境がやや異なることが予想される。よって、表-2ではアンケートにおける各評価項目の満足度と人口増加率および出生率との相関分析を行い、相関の高いものから順に並べたものを示す。表左側の人口増加率との相関係数でみると、大型商業施設、子供の公園移動性、地域の評判、総合評価の指標等が並び、総合評価指標と人口増加率との有意な相関関係があることがわかる。一方、表の右側の出生率との相関係数でみると、自然の豊かさ、子育て世代の多さ、街の景観、文化的環境などが続き、自然環境も含めた子育ての生活環境の良さが出生率に影響していることがわかる。図-2で名古屋市内において人口増加率の高い区がやや出生率では低めの結果となったのは、これらの生活環境において郊外の都市に比べて名古屋市内ではやや厳しい環境になると考えられる。

4. 総合評価指標等による重回帰分析と考察

目的変数を総合評価の5段階（1:不満～5:満足）として、説明変数を各項目の満足度（1～5）に設定して重回帰モデルを作成した。作成したモデルを表-3に示す。説明変数から、治安や安全性の寄与率が高く、次に文化的環境といった生活を快適にする施設や、公共交通利便性や都心アクセスなどの利便性、ご近所付き合いなどの地域の活動といった質的資源が影響を与えていることがわかる。こういった生活の安全・安心性が担保された上で、便利であって、コミュニティも活かせる実感が街の評価を高めると考えられる。

5. まとめ

本研究より、人口増加率および出生率と居住満足度意識との相関分析では人口増加率と出生率では幾分居住評価項目が異なることや、総合評価モデルでは地域の治安や文化的環境の影響が強いことが分かった。

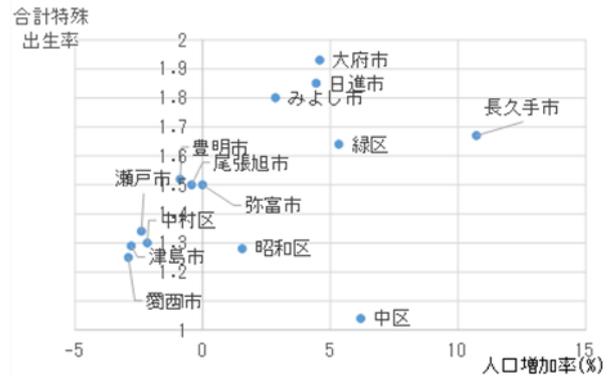


図-2 人口増加率と出生率による散布図

表-2 人口指標と各項目満足度との相関係数

項目	人口増加率	項目	合計特殊出生率
大型商業施設	0.858 ***	自然豊かさ	0.759 ***
子どもの公園移動性	0.805 ***	子育て世代の多さ	0.675 ***
地域の評判	0.710 ***	街の景観	0.664 ***
総合評価	0.652 **	文化的環境	0.649 **
災害安全性	0.647 **	住居騒音	0.626 **
子育て世代の多さ	0.637 **	ご近所付き合いの程度	0.601 **
公園安全性	0.612 **	地域の評判	0.570 **
道のわかりやすさ	0.593 **	災害安全性	0.551 **
床面積	0.592 **	地域の治安	0.514 *
文化的環境	0.579 **	行政支援の充実度	0.506 *
自然豊かさ	0.535 **	床面積	0.487 *
自治会や地区の活動	0.525 *	幼稚園・保育園数	0.394
地域の治安	0.522 *	自治会や地区の活動	0.353
ご近所付き合いの程度	0.496 *	道のわかりやすさ	0.341
街の景観	0.491 *	総合評価	0.332
行政支援の充実度	0.471 *	大型商業施設	0.318
学校の教育レベル	0.445	都心アクセス	-0.316
子どもが利用する歩道	0.434	公共交通利便性	-0.302
合計特殊出生率	0.434	子どもが利用する歩道	0.259
世帯主職場	0.402	歩道・公園の防犯性	0.258

注) *** 1%有意 ** 5%有意 * 10%有意

表-3 総合評価モデル

説明変数	推定値	t 値
切片	-0.179	-0.99***
地域の治安	0.286	6.41***
文化的環境	0.171	4.97***
災害安全性	0.125	3.06***
歩道・公園の防犯性	0.125	3.64***
公共交通利便性	0.108	2.91***
都心アクセス	0.107	2.5**
ご近所付き合いの程度	0.099	2.59***
大型商業施設	0.099	2.84***
自由度調整R ²	0.61	
F値	1.8**	
標本数	350	

注) *** 1%有意 ** 5%有意 * 10%有意